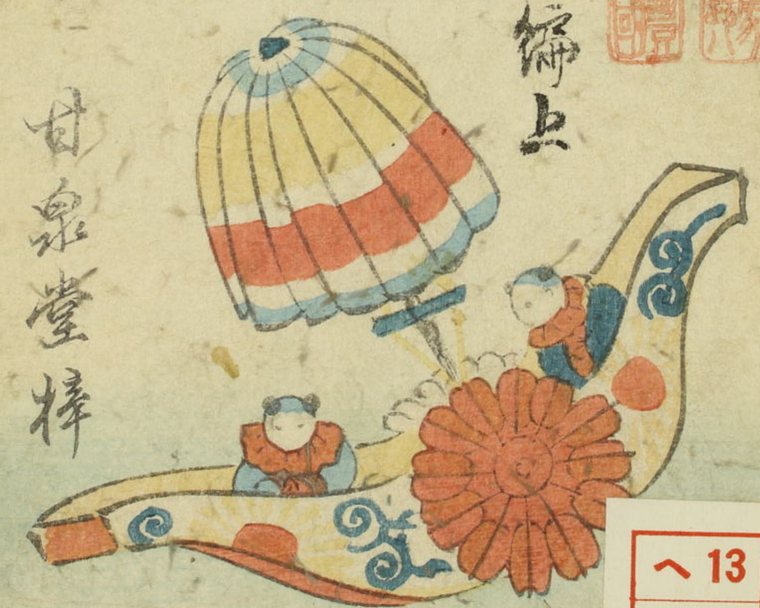
由亭遺稿

一陽齋画

女郎花四編

五色石臺

四輯下帙



嘉永四癸亥

孟春新刻

甘泉堂梓

へ13
3729
4

馬琴作
豐國画
女郎花五色石臺 四集
上帙上
上帙下

門へ13

女郎花五色石臺第四集附言

毀誉褒貶人の好憎より出づ或人あの冊子を閲して爪弾して嘲らく。女子の柔和にして軟弱に織績衣を縫ひ書記且内を治るを良とも倘女子にして其勇敢義秀親徹に勝るものあらば忽ち人倫の異常の事出て世の婦幼是を羨むあらんと欲へ倣さ事毎に暴々ならん良と人を尻に布もあらんその故に甚害あり自他の女子も眼を閉て見ざるべきあるべしとて又人あり其朝虐を解て云夫泰平の世の惰夫ヨヤク戦國の勇婦あり昔唐山姫周の時呉の孫武子の呉宮の女兵を操そのて非常に備ふ況這冊子る五勇婦の烈女韓糸の後身にして遺

恐と忠孝に果せる婦幼も是を見て学びすくみるとも企及ぶべからず。

惰夫の是に由て羞て生活を将むべく少女の是に由て恥て浮る娯樂を倣さで彼人情と狡唱る婦娃の書と同ふして何の害か是あらんや作者の用心かくの如し已るべく殿閣と敲と歌ふらく水道の水溢て濁らば戯墨の筆を洗ふべし澄らば酒に吹被て無明の酔を醒もべし去て亦共に言ふも作者の二論とも呼て腹を抱えて批して道く難波の浦のうめの芽をつゝとも悟りもせれ是非の看官の巧拙あゝ児戯の冊子と論ずる不狂人も走るに似たり只初春の笑草に詞の花を開せる吾に可もなく不可もなく替らぬ處ぞ嗚呼目出たき哉愛敬かな。

嘉永元年夏五月稿本正成
三年庚戌正月吉日出

曲亭馬琴識

赤松播磨守
則村

斫炭の揚
數百
吹草この方

三石左衛門
將勝

隱をかくし
光り紙うらむ
當この方

鯉の目
織羽

千束律平

虎とよぶ
河豚
足史乃
勇之助
獅子口虎九郎
暴海鯱六

湯上閑東次
猛次
女の使ふ
小眉刀
則村の
内室
須磨前

渦焼子
亀い
兎
きそ
御
世
乃表

持氏季児　千壽王

妹母田将

とりかへも
眞ん中のりや
後乃月

箕浦入道
西純

新曾領清方

置
置
酒
酒
泉

律

置
厚

偶
律

四
野

倭漢年紀丈

村
勝

一陽齋豊国画
女郎花
五色石壁
第永四文年
彩る新刻
四集下帙上の巻
甘泉堂蔵

五色石壁第四集
馬琴遺稿
豊國画圖
浄書 谷川金川
村
番付
上の下
番付へ

馬琴遺稿
上
女郎花五色石碁
四輯下帙
豐國画圖
下

三
五色石臺四集
敵
猿

つぎ
村
猪

勝
敵
秀

父
母

稲

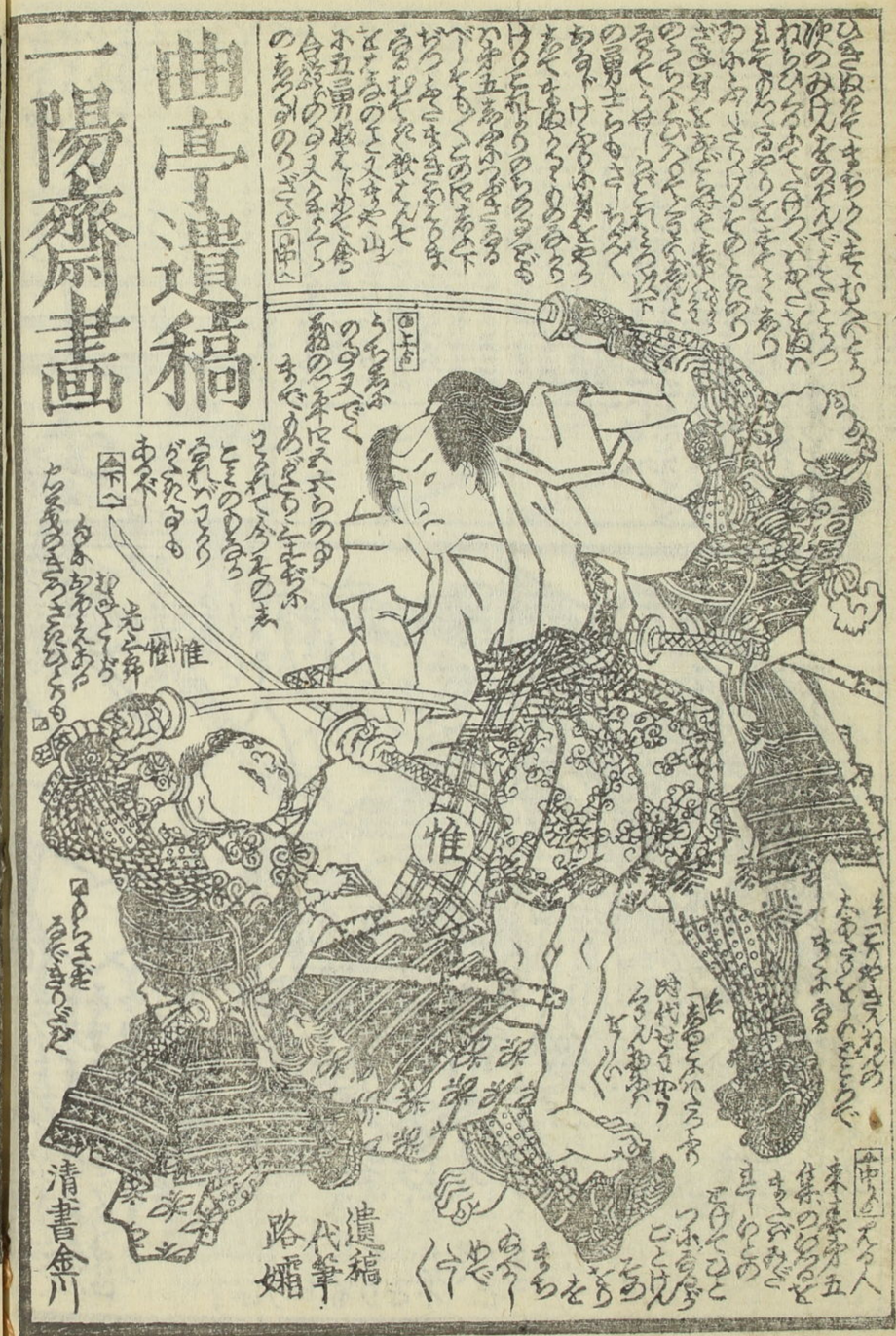
稲

稲

稲

興
野
四

実

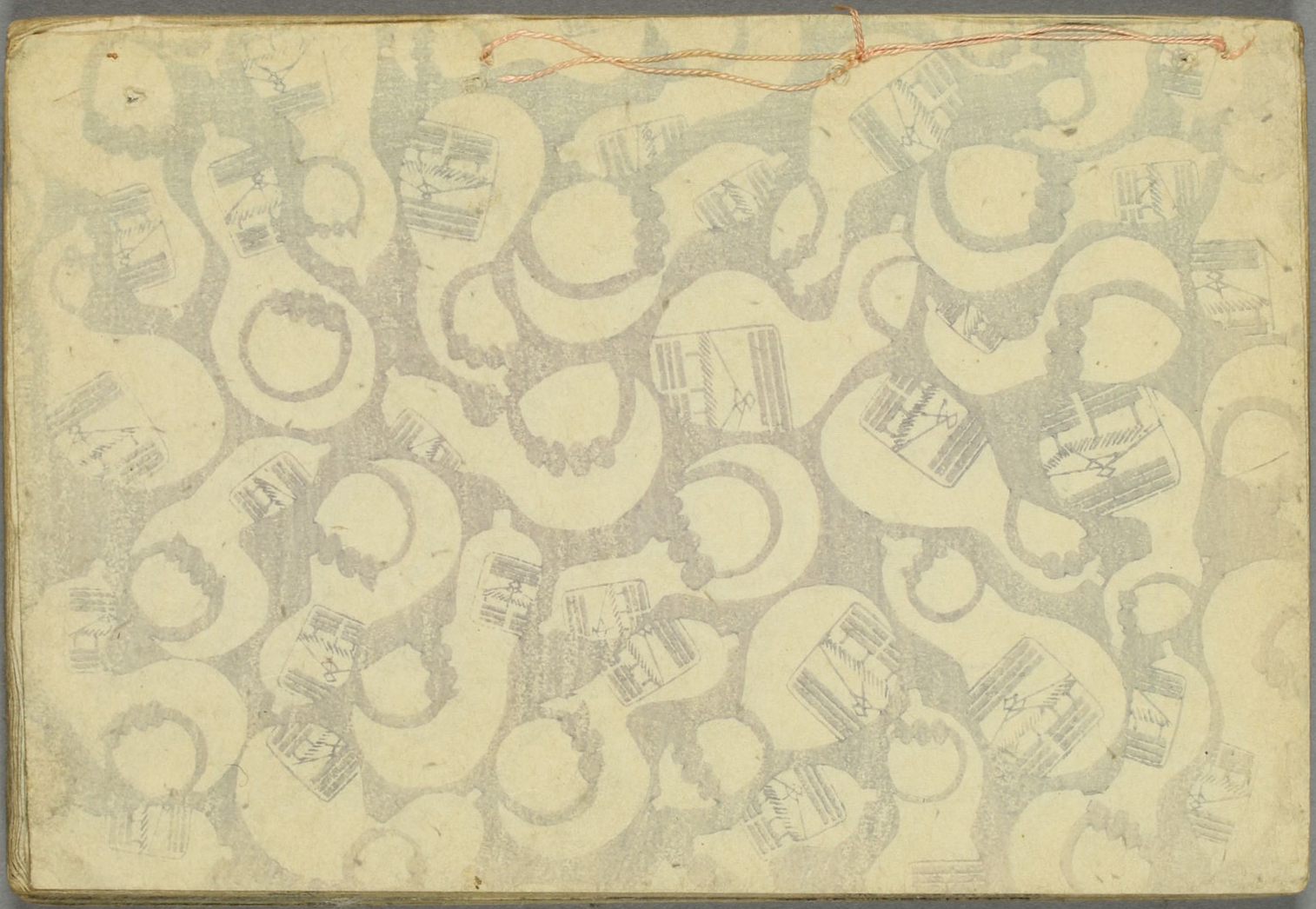


庚戌孟春新刻

児雷也豪傑譚 十二編 柳下亭作 十三編 十四編 一陽齋画

青陽石廳禁 二編 一筆菴主人作 四編 一陽齋豊國画

今紫雲の面影 初篇 仙果作 二篇 芳春画

其字湖月 松亭八一 柳亭作

[illegible]